

第3回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

準1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

- 1 巧言令色を好み諫臣を遠ざける。
2 後人が字句を補綴し評釈を加えている。
3 岡陵起伏し草木行列す。
4 原野の開墾に備役せらる。
5 乃父の遺戒を肝銘せよ。
6 禾稼の未熟を患う。
7 客人に芋粥を供する。
8 双方の立場を秤量して裁定を下す。
9 茶匙は重きを要す、黄金を上と為す。
10 何卒猷芹の微衷を御賢察下さい。
11 戦火で爺娘共に失った。
12 飛箭が熊鷹の翼を貫いた。
13 警備の杜漏が惨事を誘発した。
14 勤勞奉仕を課され、造兵廠に通った。
15 戟を交えて心ゆくまで闘った。
16 九臯の鳴鶴の如く人の知る所となる。
17 天竺から請来した仏典を漢訳する。
18 有徳の天子万国を叶和し鳳凰来儀す。
19 民を撫するに情愛を主とす。
20 古戦場に夏草が茸茸と生い茂る。
21 糸の切れた奴胤宛らの身の上だった。
22 田中に鳴が静かにたたずんでいる。
23 椋の巨木に鳥が巢を懸けている。
24 愈容易ならざる事態となった。
25 朝顔の花を衣に摺る。
26 甲申の年にクーデターがあった。
27 風に鳴る塙の松を仰ぎ見る。
28 石走る垂水の水を掬びて飲みつ。
29 若草の孀もこもれり、我もこもれり。
30 主上をしてなのめならず戚えしむ。

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。その表外の読みをひらがなで記せ。(10)

- 1 野の草が戦いでいる。
2 円かなひと時を過ごす。
3 某が一番御相手仕る。
4 彼女の直向きな情熱に心を打たれた。
5 嫌になるほど脂っこい男だった。
6 海の幸山の幸を上る。
7 無数のアリが集っている。
8 いたずらに歯を重ねる。
9 腸がちぎれる思いで別れた。
10 杓子定規なことを宣うな。

(三) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを送りがなに注意してひらがなで記せ。(10)

- 〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょうす
ア 1 祁寒…… 2 祁いに
イ 3 叢起…… 4 叢がる
ウ 5 瀆職…… 6 瀆す
エ 7 駕跨…… 8 駕る
オ 9 步趨…… 10 趨る

(四) 次の各組の二文の()には共通する漢字が入る。その読みを後の□から選び、常用漢字(一字)で記せ。(10)

- 1 断じて承(1)できない。 □ 守衛として(1)務める。
2 (2)所を外してしくじった。 □ 父親の(2)気を被った。
3 (3)度金が足りない。 □ 先学の説を援(3)する。
4 一朝(4)事の際の覚悟を示す。 □ 特殊な能力を具(4)している。
5 句作を(5)閑の具とする。 □ 党の(5)長がかかっている。
かん・きゆう・し・しよう
にん・ふく・ゆう・よう

(五) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)

- 1 仏壇に口ウソクを灯し線香を立てる。
2 赤ん坊の全身にシツシンができている。
3 オイゴ様もご壮健のことと存じます。
4 塔にのぼる人がケシ粒のように見える。
5 県境の山脈がブンスイレイとなる。
6 社史のヘンサンに従事する。
7 荒地を拓きカンガイして米を作る。
8 近時、イツセキガンを具する人を見ない。
9 カンゴウ集落の遺構が発掘された。
10 ハシゴを外されて歯噛みする。
11 アキれるほど要領よく立ち回る。
12 不始末をしでかした部下をカバう。
13 刀のツバの細工が凝っている。
14 嘗てのキュウテキが今は盟友となった。
15 大きくオモカジを切って進路を転じた。
16 君に合格のヨウケツを伝授致そう。
17 利権をめぐるフンジヨウが絶えない。
18 家業を継ぐまでに随分とウ口を辿った。
19 市街地でリンカに遭って重傷を負った。
20 雨夜の墓地でリンカが冷たく燃える。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(六) 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

(10) 2x5

- 1 初春の富士の麗容を遥拝しつつ国家長久、家運隆昇、無病息災を念じた。
2 近来新境著しい若手女優が、国立劇場竣成記念公演の主役に抜擢された。
3 目に一定字も無い蒙昧無知の己を恥じ刻苦勉勵して晩成の碩学となった。
4 本朝に比隣を絶する大長編小説を脱稿した時、既に命旦夕に迫っていた。
5 鶯が鳴き、百花開き、煙華の揺曳する塵外の地に遅々たる春日を過ごす。
(七) 次の問1と問2の四字熟語について 答えよ。(30)

問1

次の四字熟語の(1~10)に入る適切な(20)語を後の□から選び漢字二字で記せ。

(20) 2x10

- (1) 附会 九鼎 (6)
(2) 猛進 陰徳 (7)
(3) 嘗胆 六根 (8)
(4) 蜜語 鉄腸 (9)
(5) 馬腹 河凶 (10)

がしん・けんきよう・しようじようせきしん・たいりよ・ちようべんちよとつ・てんげん・ようほうらくしよ

問2

次の1~5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。

(10) 2x5

- 1 物事の基準。
2 死に物狂いの抵抗。
3 自分の良心を欺いて悪事を働く。
4 微塵も揺るがぬさま。
5 口八丁手八丁の資性。

確乎不拔・鉤繩規矩・処女脱兎資弁捷疾・窮鼠嚙猫・掩耳盜鐘城狐社鼠・瓦釜雷鳴

(八) 次の1~5の対義語、6~10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

(20) 2x10

対義語 類義語
1 浅瀬 6 激浪
2 失墜 7 突飛
3 前線 8 一斑
4 枯渴 9 筆蹟
5 峻険 10 平伏

おういつ・ききよう・こうしゅじゅうご・しんえん・たんいどう・ばんかい・へんりんぼつこん

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分を選択して漢字で記せ。(20) 2x10

- 1 負け犬のトオボエ。
2 グコウ山を移す。
3 天上のゴスイ人間の一炊。
4 フクテツを踏む。
5 幽谷を出でてキヨウボクに遷る。
6 コシヨウ鳴らし難し。
7 老いのヒガミ。
8 コウチは拙速に如かず。
9 公家の達者は歌、ケマリ。
10 キツチュウの楽しみ。

(十) 文章中の傍線(1~5)のカタカナを漢字に直し、波線(ア~コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2x5 1x10

A おれが椽鼻で清の手紙をひらつかせながら、考え込んで居ると、しきりの襖をあけて、萩野の御婆さんが晩めしを持ってきた。見ると今夜も薩摩芋の煮つけだ。ここのうちには、いか銀よりも鄭寧で、親切で、しかも上品だが、惜しい事に食い物がまずい。昨日も芋一昨日も芋で今夜も芋だ。清ならこんな時に、おれの好きな鮪のさし身か、カマボコのつけ焼きを食わせるんだが、貧乏士族のけちん坊と来ちゃ仕方がない。どう考えても清と一所でなくつちあ駄目だ。もしこの学校に長くても居る模様なら、東京から呼び呼せてやろう。天麩羅蕎麦を食っちゃならない、団子を食べつちやならない、夫で下宿に居て芋許り食って黄色くなつて居るなんて、教育者はつらいものだ。禅宗坊主だつて、是よりは口に榮耀をさせて居るだろう。おれは一皿の芋を平らげて、机の抽斗から生卵を二つ出して、茶碗の縁でたたき割つて、漸くシノいだ。生卵でも營養をとらなくつちあ一週二十一時間の授業が出来るものか。(夏目漱石「坊っちゃん」より)

B 『八犬伝』中の八士の如きは、仁義八行の化物にて、決して人間とはい難かり。作者の本意も、彼八行を人に擬して小説をなすべき心得なるから、あくまで八士の行をば完全無欠の者となして、勸懲の意をグウせしなり。されば勸懲を主眼として『八犬伝』を評するときには、東西古今にその類なき好裨史なりといふべけれど、他の人情を主眼としてこの物語を論いば、瑕なき玉とは称えがたし。その故をいかにとならば、彼八主公の行いを見よ、否、行為はとまれかくまれ、肚の裏にて思える事だに徹頭徹尾道にかないて、曾て劣情を発せしことなし。矧んや一時瞬間といえども、シンエン狂い、意馬跳りて、彼道理力と肚の裏にて闘いたりける例もなし、よしやギョウシュンの聖代なればとて、かかる聖賢の八個までも相並びつつ世にいでんこと殆ど望みがたき事ならずや。(坪内逍遙「小説神髓」より)